

## 農林水産物の生産等概況について

### 1 要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

### 2 現状・背景

—

### 3 概要

#### (1) 調査対象

卸売市場、出荷団体等

#### (2) 調査期間

令和6年2月～令和6年5月

#### (3) 調査結果

#### ア 農産物

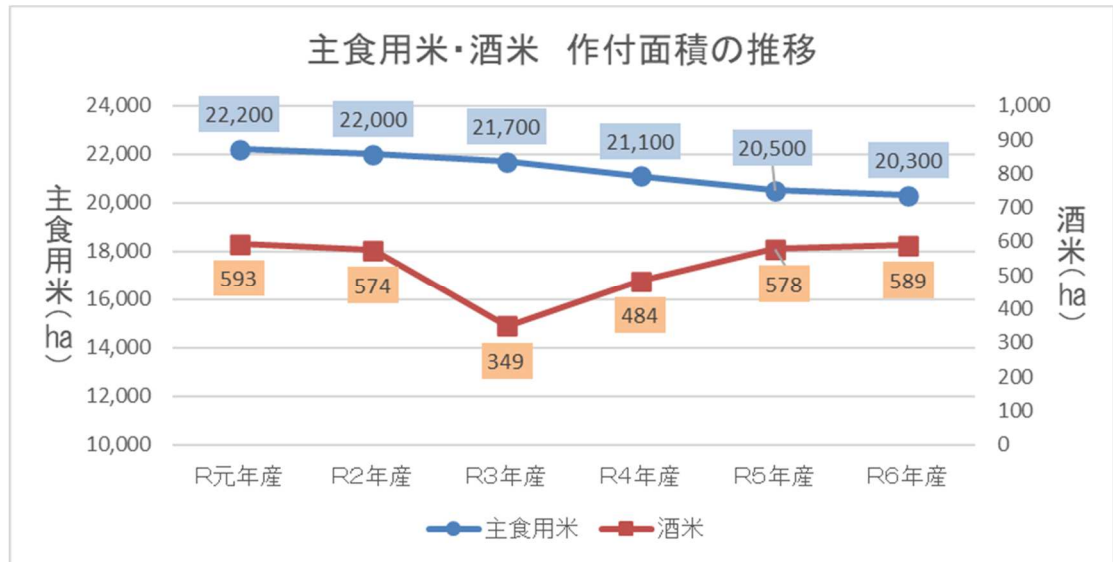
#### (7) 普通作物の生産状況

##### a 水稲

5月末現在の主食用米の作付面積は前年より約200ha減少し、20,300haと見込んでいる。

一方、令和3年産から需要が減少していた酒造好適米（酒米）の作付面積は、令和4年産から回復に転じており、令和6年産は前年産から約10ha増の589haと見込まれ、需要減少前の水準に戻っている。

現在、田植えは前年同様に9割近くが終了しており、生育は順調である。



##### b 大豆

大豆は三次市、東広島市等で栽培され、作付面積は前年から20ha減少し、380haと見込んでいる。

現在、播種作業が始まっているところであり、7月下旬に終了する予定である。

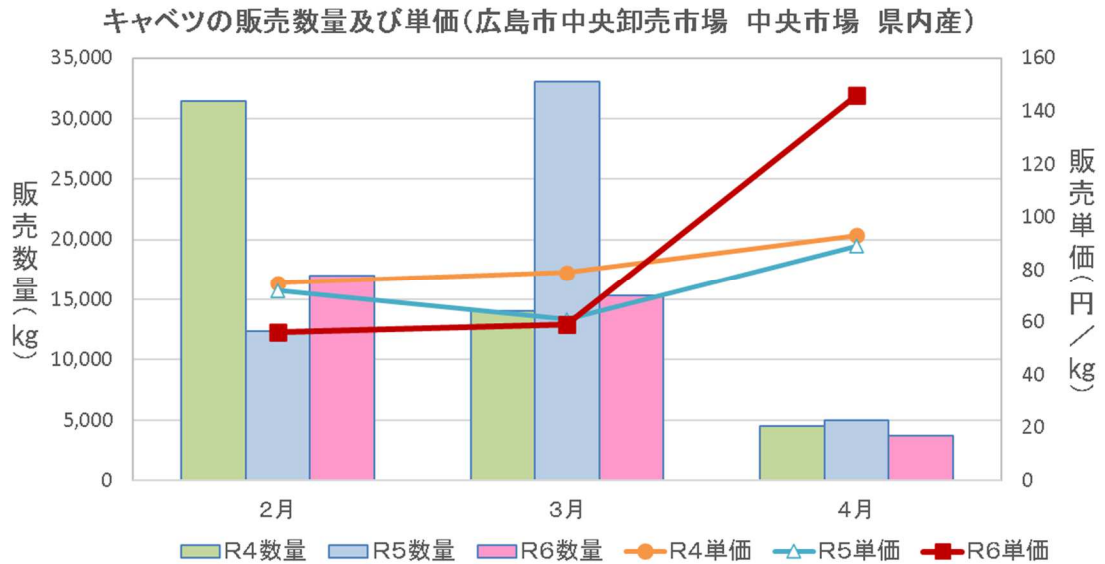
(イ) 野菜の生産状況

全般的に、2月の高温の後に3～5月まで低温となり、加温する施設を除いて生産量が減った影響で単価は上がった。

a キャベツ

主に尾道市因島や江田島市等の県南部から出荷されている。

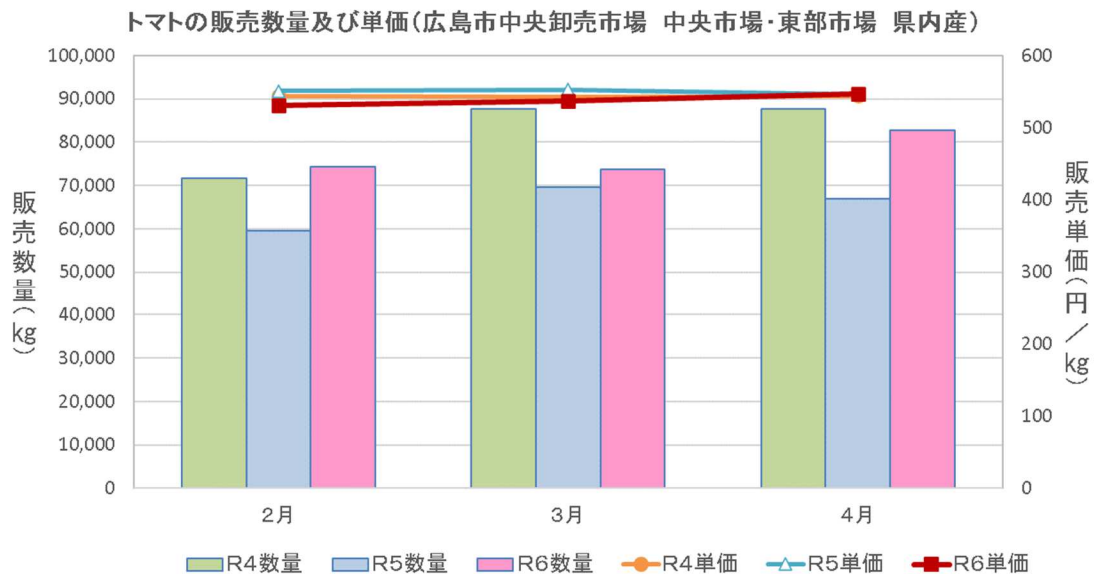
春先の低温の影響で生産量が減少したことにより、販売数量は平年の5～8割で推移した。4月における単価は、平年の約150%の高値で取引された。



b トマト

冬春トマトは、呉市等の県南部から出荷され、7月初旬頃まで出荷が予定されている。

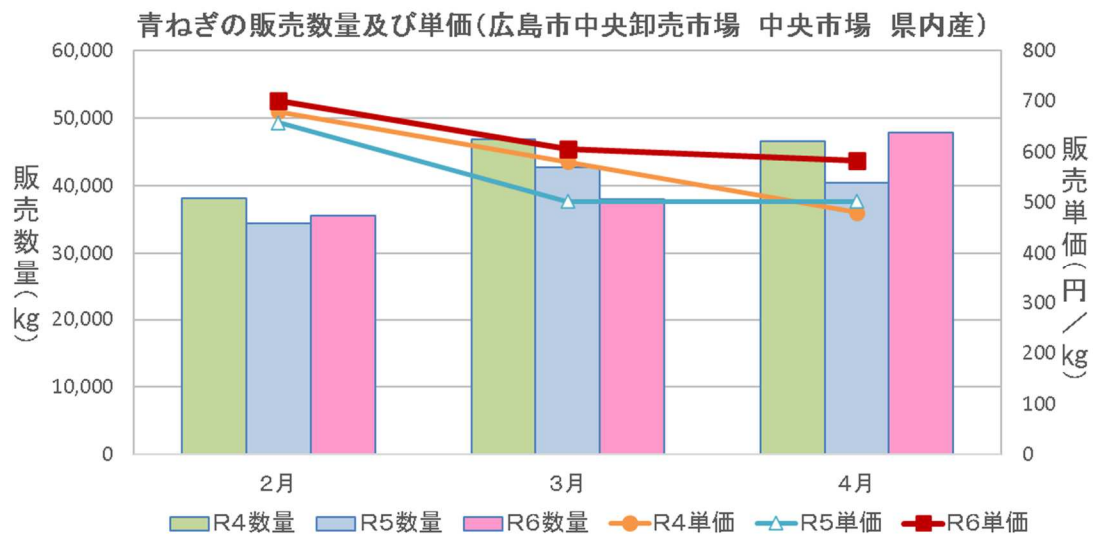
春先は、低温の影響で販売数量が一昨年よりやや少なくなったものの、2月から4月の販売数量は、平年比で約120%となった。この時期に出荷されたトマトは、契約販売が主体のため、価格は平年並みであった。



c 青ねぎ

安芸高田市等から周年出荷されている。

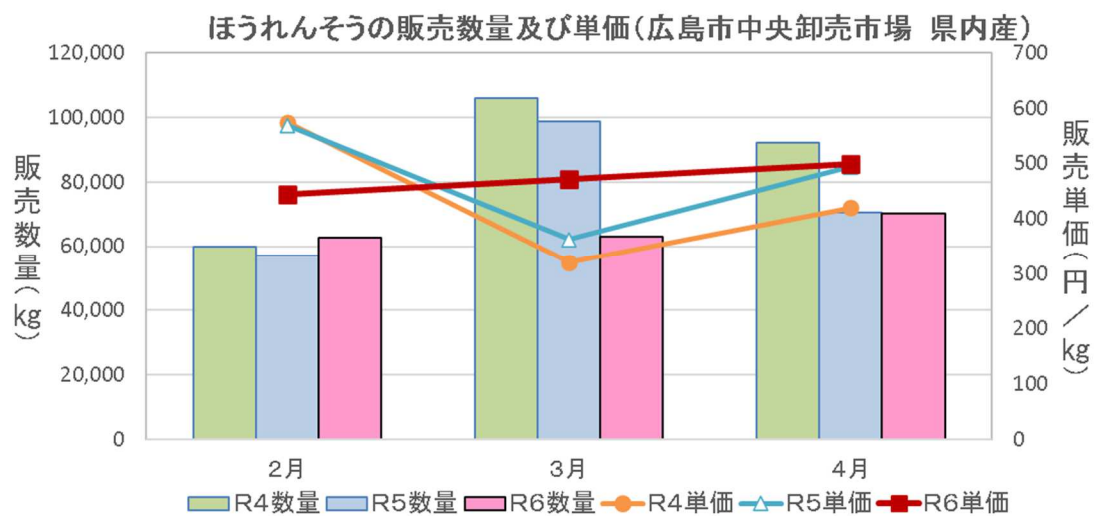
需要は落ち着いているが、例年この時期は、安値で推移する傾向があるため、県外市場への出荷量を増やしたことにより、2～3月の販売数量は平年の約1割減、単価は平年の約2割程度高値で推移した。



d ほうれんそう

広島市、庄原市等から出荷されている。

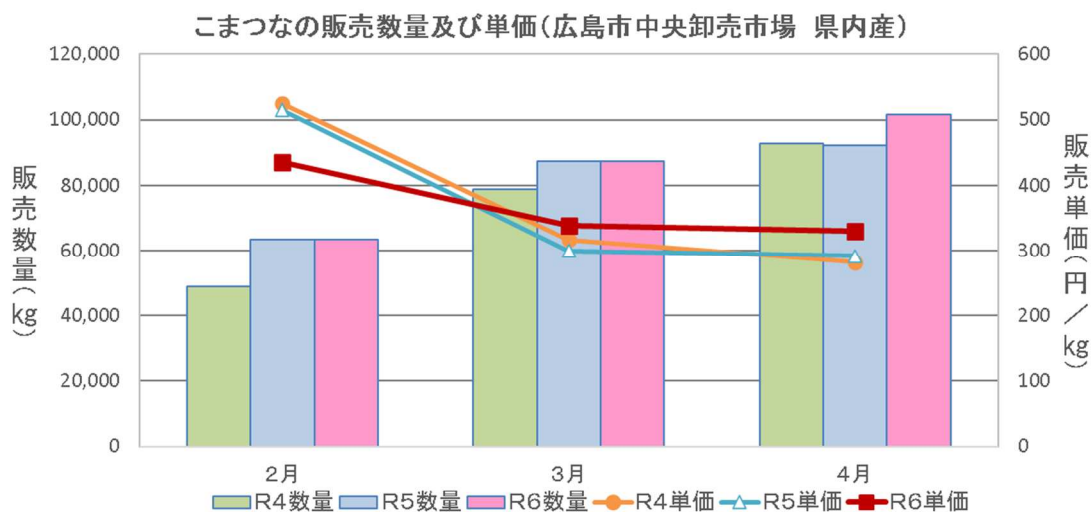
販売数量は、3月が平年の約3割減、4月は約2割減。単価は3月が平年の約130%、4月は約110%で推移した。



e こまつな

広島市、安芸太田町等から出荷されている。

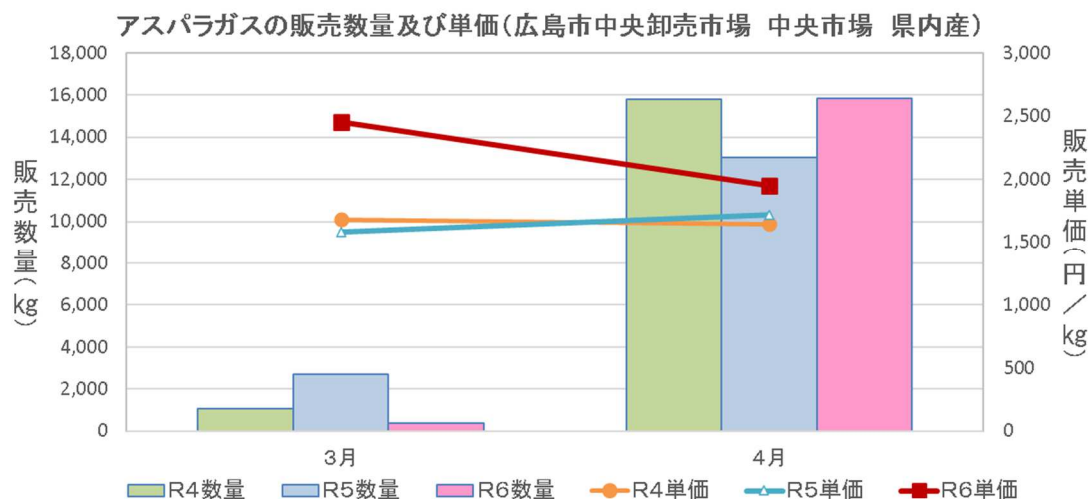
販売数量は平年並みよりやや増、単価は前年よりやや高値で推移した。



f アスパラガス

三次市や庄原市、世羅町等から出荷されている。

3月から出荷が開始され、3月の販売数量は平年の約8割減、4月は平年並みとなった。単価は平年より高値で推移した。



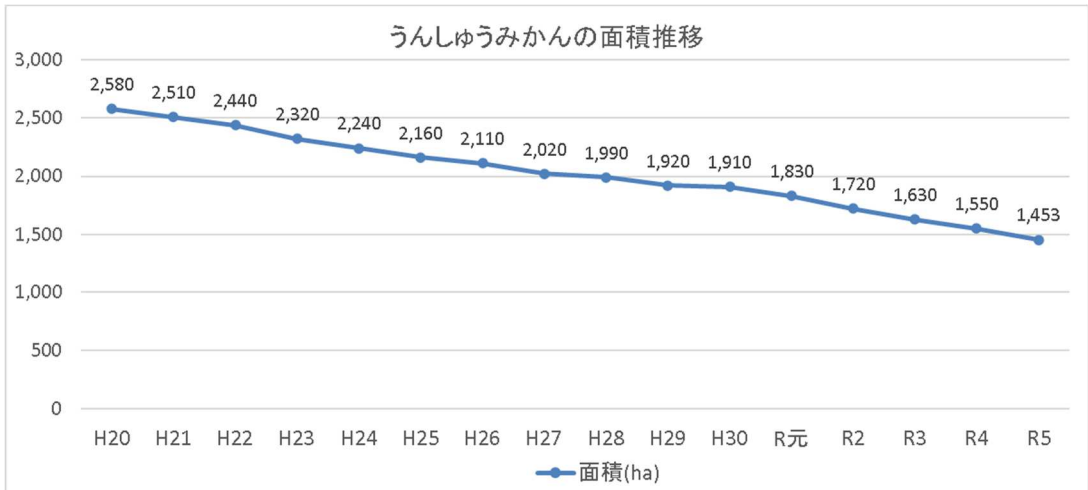
(ウ) 果樹の生産状況

県内において、チャバネアオカメムシをはじめとしてカメムシの発生が多くなっている。現在、ビワにおいて若干の被害が確認されている。

今後は、気温の上昇に伴い、さらに飛来が増加する可能性があるため、ほ場の定期的な見回りを行い、飛来が確認された場合は、速やかに防除するよう呼びかけている。

a うんしゅうみかん

面積は年々減少しており、前年より 97ha 減少し、1,453ha で栽培されている。



令和6年産は裏年に当たるが、生産量は前年より増加し、16,162 t と見込まれる。生育は、平年より8日程度早く進んでいる。

本県産うんしゅうみかんの予想生産量

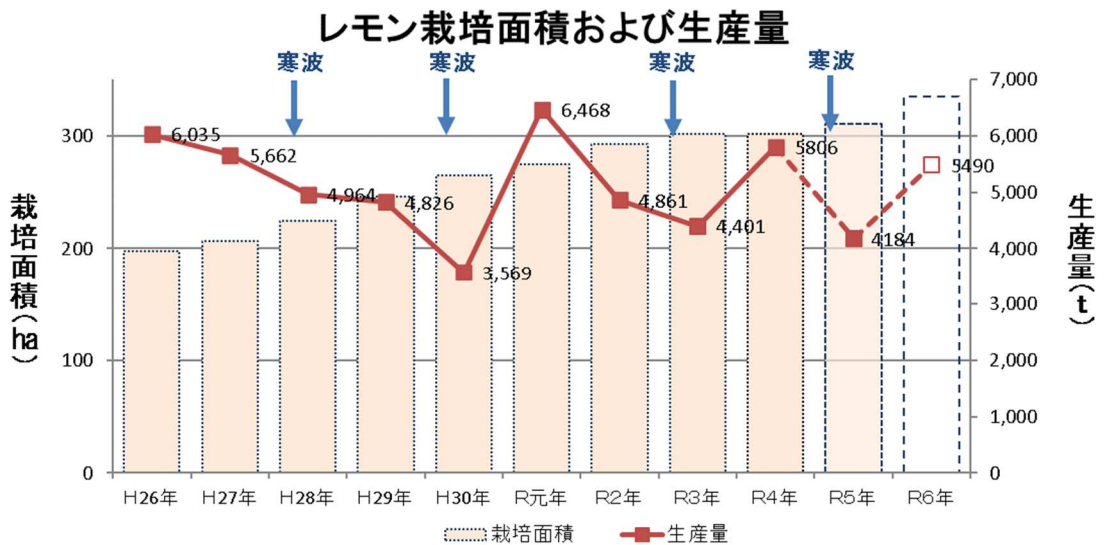
区分	生産量			対比		
	令和6年産 予想(t)	令和5年産 実績(t)	令和4年産 実績(t)	R6/R5 (%)	R6/R4 (%)	
うんしゅうみかん	極早生	3,572	3,230	3,560	111%	100%
	早生	6,007	6,210	6,410	97%	94%
	普通	6,583	6,420	6,420	103%	103%
	合計	16,162	15,860	16,390	102%	99%

※令和4年・令和5年産実績は「作物統計」(農林水産省)。

令和6年産予想は、JA広島果実連調べ(開花・発芽状況調査から推計)。

b レモン

令和5年産の生産量は、寒波被害及び夏の干ばつにより、前年に比べ28%減の4,184tとなる見込み。



※令和4年産までの数値は、「特産果樹生産動態等調査(農林水産省)」の数値。

令和5年産の数値は、JA広島果実連調べ(速報値)。

c レモン以外の主要な中晩柑類

令和5年産の生産量は、平年より少なかったため、販売単価は令和4年産比 102～109%で取引された。

令和5年産 広島県産主要中晩柑類の生産・販売状況

品目	生産量			販売単価		
	令和5年 (t)	令和4年比 (%)	令和3年比 (%)	令和5年 (円/kg)	令和4年比 (%)	令和3年比 (%)
ネーブル オレンジ	1,204	69	69	320	105	114
はっさく	3,507	84	80	252	102	107
しらぬい	1,848	63	72	370	108	117
はるみ	899	68	65	414	109	112

(注) J A広島果実連調べ(令和6年5月時点)。

d ぶどう

面積はやや増加し、274ha となっており、生育は平年並みである。

尾道市産のデラウェアは、平年より4日遅く、5月28日から出荷が始まっている。

e なし・りんご

面積は概ね現状維持で、なしは139ha、りんごは89haである。

開花日は、なし及びりんごともに、平年並みとなった。

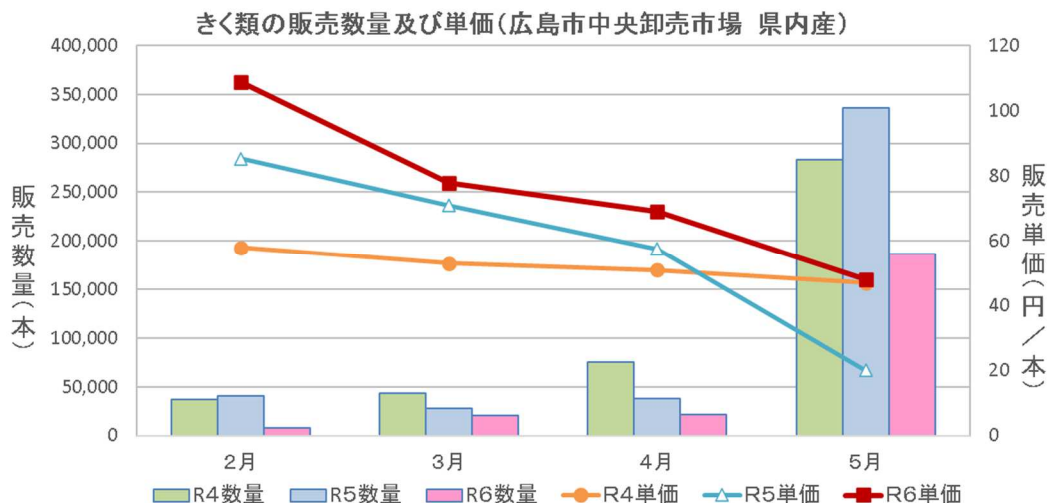
凍霜害の影響はほとんどないものの、5月の着果量を基にした作柄は、なしについては平年よりやや多く、りんごは平年よりやや少ないと見込まれる。

(I) 花きの生産状況

a きく

江田島市を中心とした南部で出荷されている。

作付配分について、春出荷を減らして盆出荷向けを増やしたことと、昨年秋の苗の採取時の天候不良の影響により苗が減ったことから、昨年より生産量が減った。

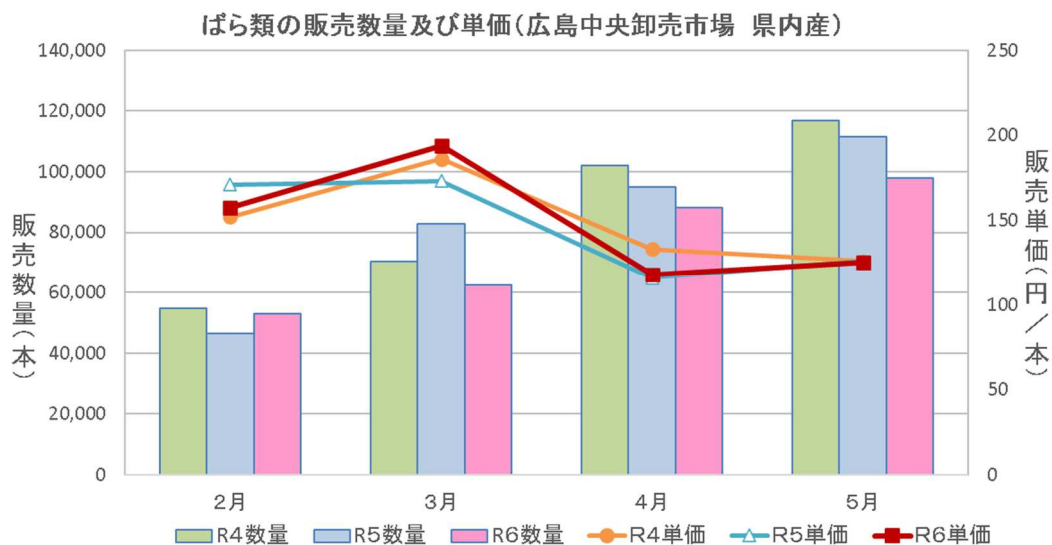


## ばら

主に廿日市市、江田島市、呉市から出荷されている。

販売数量は、平年より少なくなっているが、販売単価は平年並みで推移している。

なお、ばらを含めて洋花の販売数量は、全体的に平年並みとなっている。婚礼需要は戻りつつあるが、利用する品目にムラがある。また、花を行事に利用しない案件も増えており、推進品目が絞りにくい傾向にある。

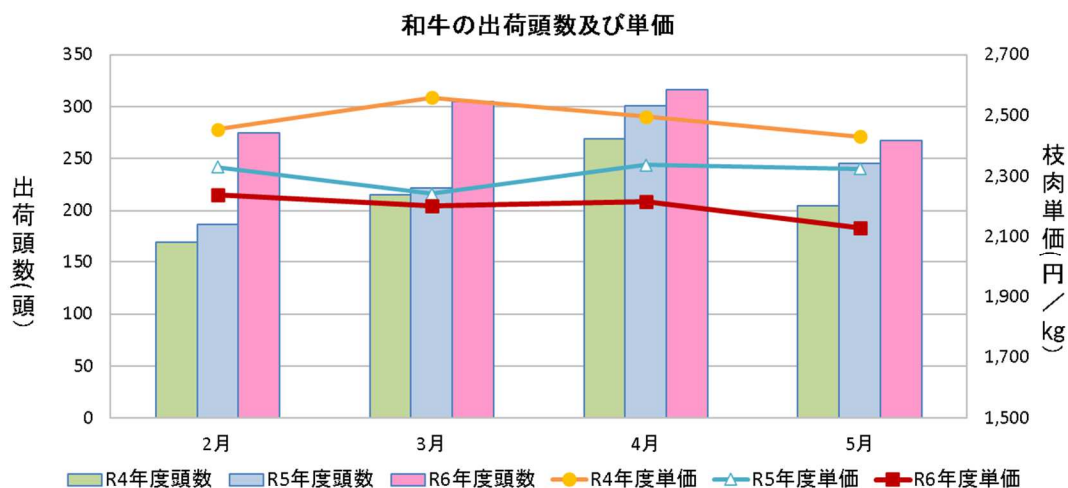


## イ 畜産物

### (7) 和牛

出荷頭数は、前年を上回って推移している（前年比 101～126%）。

枝肉単価は、相次ぐ物価上昇による消費者の買い控えにより、和牛肉の引き合いが弱くなったことから、前年を下回って推移している（前年比 85～97%）。



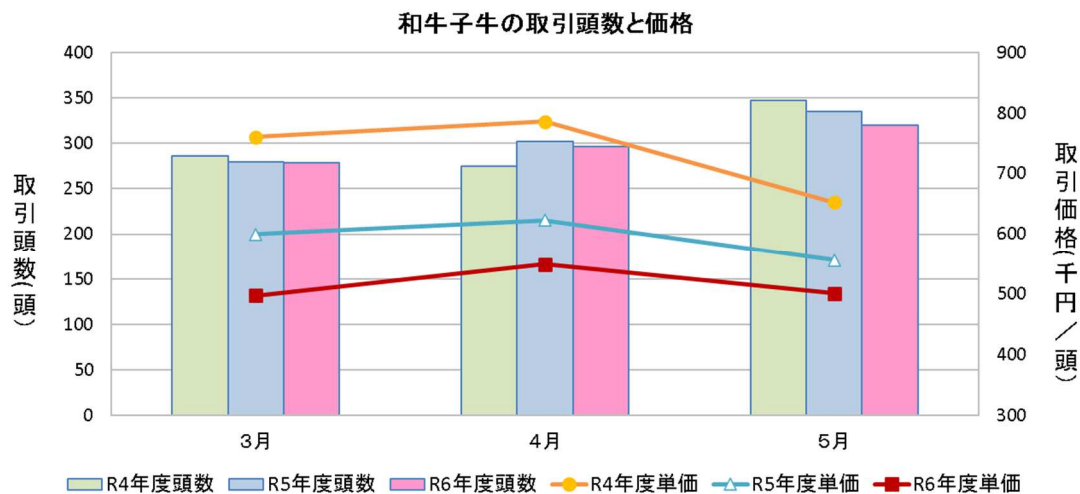
※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。

出荷頭数は全ての和牛（成牛）、枝肉単価は和牛去勢A 4 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。

(イ) 和牛子牛

出荷頭数は、前年をやや下回って推移している（前年比 96～100%）。

取引単価は、枝肉単価が軟調に推移し、肥育経営体の収支が悪化していることなどから、前年を下回って推移している（前年比 83～90%）。

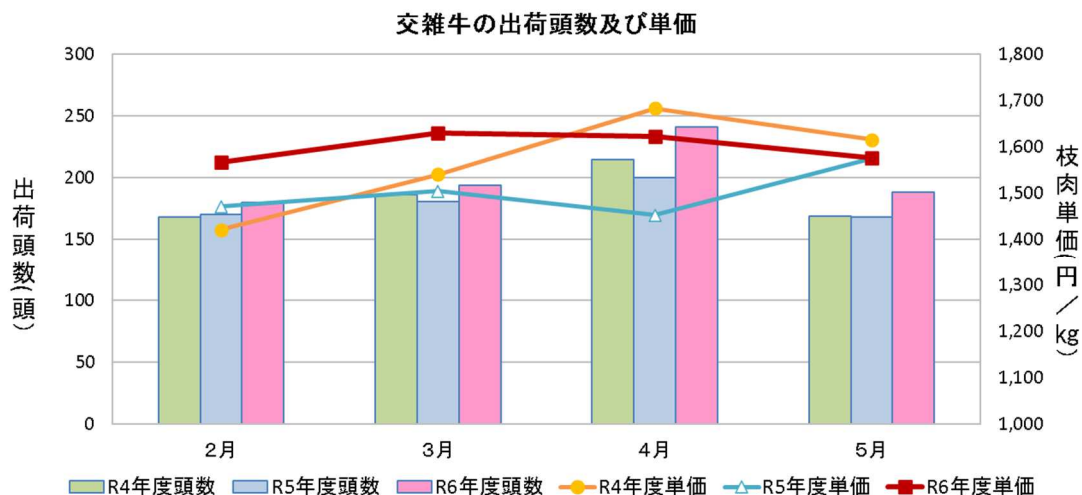


※「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ウ) 交雑牛

出荷頭数は、前年を上回って推移している（前年比 106～121%）。

枝肉単価は、高価な和牛肉からの代替需要に加え、輸入牛肉が円安等の影響により値上がりしたことを受け、交雑牛肉の引き合いが強まっていることから、前年を上回って推移している（前年比 100～112%）。



※「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は、「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。

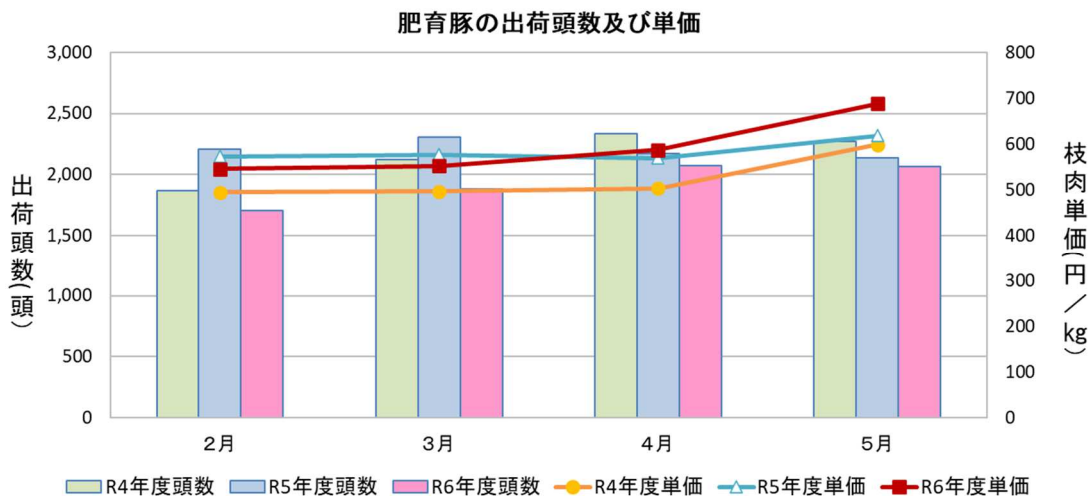
出荷頭数は全ての交雑牛（成牛）、枝肉単価は交雑牛去勢 B3 でいずれも広島市中央卸売市場食肉市場。



(エ) 豚

出荷頭数は、前年夏の高温の影響で出産頭数が減ったことなどから、前年を下回って推移している。

枝肉単価は、円安や輸入豚肉量の減少並びに出荷頭数の減少等の影響により、上昇傾向で推移している。



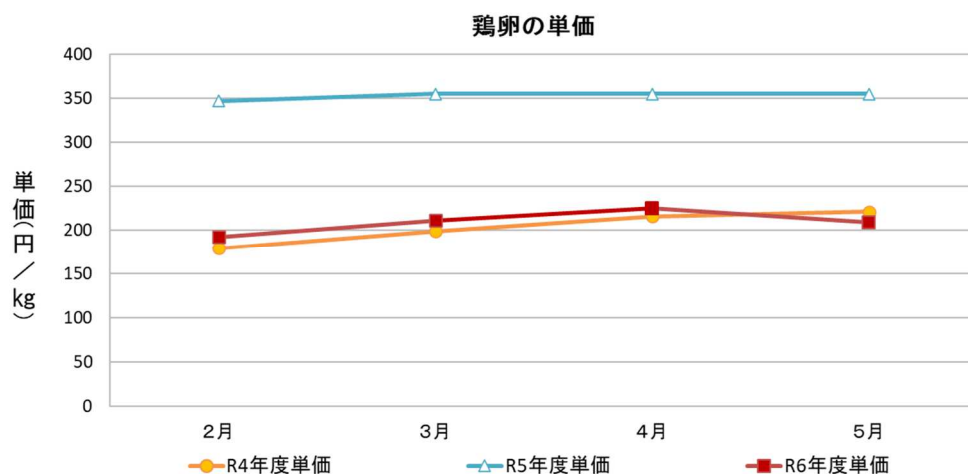
※「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産

※「食肉市況速報」( (公社) 日本食肉市場卸売協会) から引用。

枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(オ) 鶏卵 (全農ひろしま M)

鶏卵の単価は、令和4年度に発生した高病原性鳥インフルエンザの影響で減少した生産は回復してきているものの、加工用の需要が回復していないことなどから、昨年度から約4割下回って推移している。

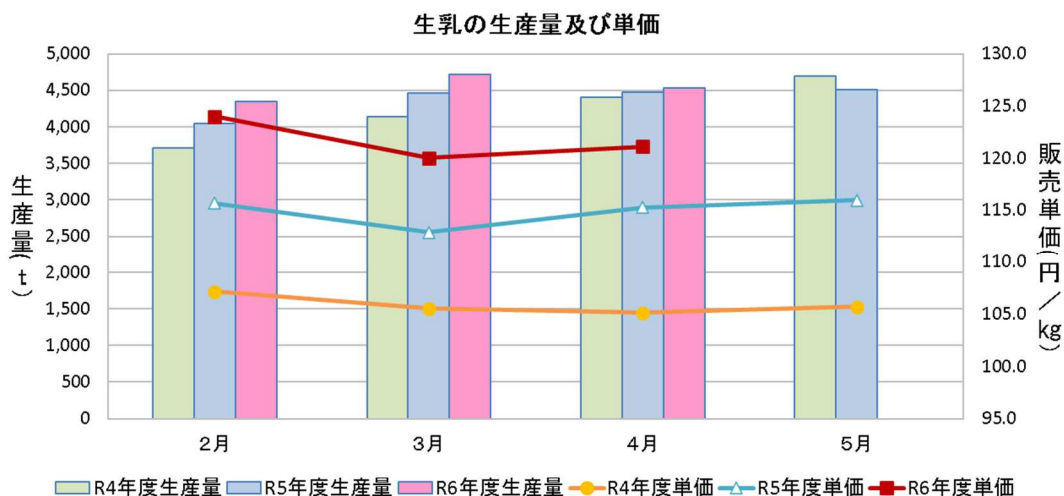


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」(M品の単価)

(カ) 酪農

生乳生産量は、前年をやや上回って推移している（前年比 102～107%）。

生乳の販売単価は、飲用向け乳価が令和 5 年 8 月に 10 円/kg 値上げされたことを受け、前年より 10 円弱高く推移している。



※生乳生産量は、「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合聞取りで手取り乳価。

(キ) 飼料等価格

配合飼料の価格は、円安等の影響により、依然として高値が続いている。

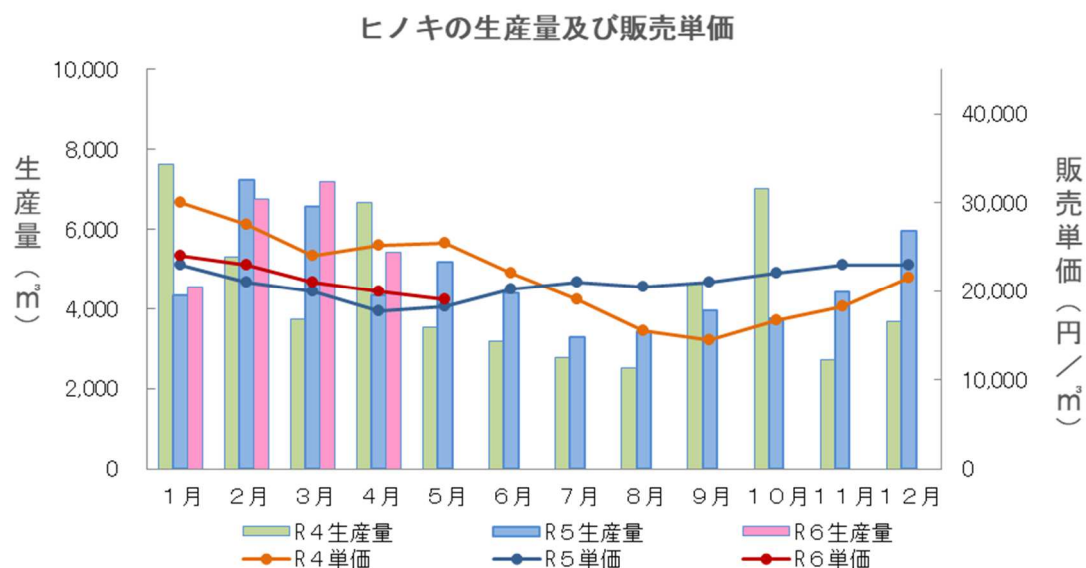
粗飼料の価格についても、依然として高い水準で推移している。

ウ 林産物

木材の生産状況

ヒノキの生産量及び販売単価は、県産材需要に対応するため、県北部で主にヒノキを製材する工場が製材機械を更新し、昨年 4 月以降、増産体制を取っていることから、前年を上回っている。

引き続き、木材の価格動向等を注視するとともに、広島県森林組合連合会と連携して需要先の確保を行う。



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

## エ 水産物

### (7) 水温

6月上旬の県内海域32点の表層水温は17.3～21.3℃で、平年差は-1.0～+2.9℃であった。

海 域	広島湾	安芸灘	備後灘
6月上旬の水温	19.1～21.3℃	17.3～20.5℃	18.4～21.1℃
平年差	-0.4～+1.9℃	+0.2～+2.9℃	-1.0～+0.7℃

### (イ) 漁獲状況

#### a 取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 16 品目の取扱数量について、平年比で5割を上回る魚種はマダイ、キジハタの2品目であった。

また、5割を下回ったのはサヨリ、サワラ、サゴシなど6品目であった。

#### b 取扱単価

県内産の取扱単価について2割を上回る魚種は、カワハギ、サワラ、タコなど6品目であった。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和6年4月）

品 目	市 場 全 体						県 内 産					
	数 量			単 価			数 量			単 価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	100	174	150	653	78	82	50.9	200	195	578	78	79
クロダイ	17.6	127	88	313	91	95	16.8	127	102	313	91	92
カワハギ	14.1	109	45	1,010	95	148	6.9	91	84	1,306	100	129
スズキ	15.7	97	78	674	112	122	7.4	133	96	617	101	116
サヨリ	10.7	318	57	697	50	83	7.5	236	48	394	28	46
サワラ	12.3	71	63	1,721	120	140	2.4	50	45	1,471	104	128
サゴシ	6.6	182	44	914	103	131	0.1	94	34	1,008	88	114
アナゴ	27.6	98	96	1,689	97	89	1.3	65	49	783	68	63
ヒラメ	8.3	119	88	1,884	90	111	2.7	151	121	1,485	76	96
タコ	11.4	129	81	2,180	101	134	3.0	88	50	2,428	103	139
コウイカ	5.2	181	49	998	83	134	2.3	206	105	1,076	77	120
オコゼ	1.6	110	41	2,331	98	147	0.7	137	32	2,080	92	135
シタビラメ	2.5	137	81	1,294	104	133	1.3	108	75	1,242	103	122
カサゴ	2.1	141	87	872	112	102	1.1	128	91	862	103	94
メバル	6.1	60	42	1,675	136	140	1.6	102	44	1,576	113	123
キジハタ	1.0	121	193	1,999	91	83	0.9	114	243	1,996	92	82

平年値は平成26年～令和5年の平均

(ウ) 養殖状況

かき養殖

令和5年度漁期（令和5年10月～6年6月）のかき養殖は、10月1日から出荷が開始された。

かきの生育状況については、10月の海水温が高かったことや、降水量が少ないことによるエサ不足の影響で、10月から1月までは平均むき身重量は平年を下回ったものの、2月以降は降雨などの影響もあり平年並みで推移したため、漁期を通じた生育は平年比96%となった。

むき身かきの出荷については、かき殻の堆積状況による生産調整も懸念されたが、江波の一時保管場所の確保などの対策もあって、今漁期のむき身生産に大きな影響は出なかった。

単価については冷凍加工向けの需要が強く、2月～5月にかけて高値で推移し、平年比130%の985円/kgとなった。

令和6年度のかき採苗対策については、昨年と同様に、国、県、広島市などが連携して、かき幼生の分布等を調査し、調査結果を直ちに生産者へ情報提供するとともに、それを受けて生産者が産卵用の母貝筏を広島湾北部海域へ移動させるなど、種苗の安定確保に向けた取組を進めることとしている。

広島県かき成育状況調査結果

区分	平均むき身重量 (g/個)	平均単価 (円/kg)
令和5年度 (平年比)	15.3 (96%)	985 (130%)
平年	15.9	755

平年値は平成25年～令和4年の平均

